



子ども達に好評 統計課職員が授業を実施

茨城県政策企画部統計課 普及情報グループ

■統計教育を取り巻く環境

平成30年6月1日に統計法が一部改正され、統計の利活用推進については、一層の強化策が盛り込まれたところです。

また、行政分野では、証拠に基づく政策立案（Evidence-Based Policy Making）が提唱されており、統計という分野が以前にも増して注目されています。

さらに、教育の分野においては、学習指導要領が10年振りに改訂され、平成32年度より順次実施されますが、小・中・高を通じて、統計的な内容が充実される予定になっています。新要領では、統計からの確に情報を読み解き、合理的な意思決定や課題解決を行う能力「統計リテラシー」が求められています。

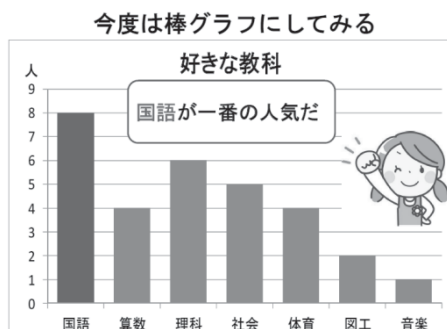
■茨城県が実施する統計出前授業

子どもの頃から統計を身近に感じてもらうため、また統計リテラシーを身に付けさせるため、県職員などを小学校に派遣して統計をテーマとした授業を行う「統計出前授業」は、総務省の調査（平成27年7月）によると21県で実施されています。

茨城県では平成24年度から実施しており、職員2名から3名を、主に小学校高学年の授業に派遣し、次のような内容の授業を行っています。

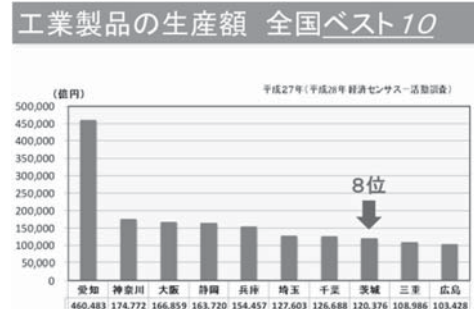
授業例① 茨城県や市町村の姿

- 児童の好きな教科のアンケート結果など児童にとって身近な事例を用いて、表やグラフの特徴を説明。
- 様々な統計（人口・農業・工業・商業・教育等）をクイズ形式で出題し、楽しく学べるように工夫。



授業例② 茨城県の農業や工業

- 茨城県の農業（農家数や農業産出額等）や工業（企業誘致の実績や製造品出荷額等）、また各小学校が所在する市町村の特徴などを、表やグラフを多用して、分かりやすく説明。



■統計の窓

■統計サポーターを派遣する統計出前・特別授業

茨城県統計課では、ホームページの運営や刊行物の発行といったこれまでの情報発信の取組みに加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信に力を入れています。

SNSを活用する中で、統計情報をより分かりやすく、より多くの方々にお届けするため、平成27年度には、独自に「いばらき統計サポーター制度」を創設しました。統計サポーターは茨城県内に根差して活動する著名な方で、現在4組を委嘱しています。

- 第1号 オスペンギン 吉本興業所属お笑い芸人。茨城県住みます芸人。
- 第2号 青木智也 通称イバラキング。ラップや著述など幅広く活躍。
- 第3号 木村さおり 元IBS茨城放送アナウンサー、現フリーアナウンサー。
- 第4号 オニツカサリー 歌手。本県をテーマにした楽曲をリリース。

統計課では、統計サポーターの活躍の場をさらに拓げるため、統計サポーターを統計出前授業に派遣する取組みを平成28年度から開始しました。

これまでに3回派遣をしましたが、統計クイズを交えた漫才や、茨城県が全国で上位にある統計データが引用されているラップの歌詞の紹介など、面白くかつ分かりやすい授業が実施されました。

統計サポーターを派遣する際の費用は茨城県統計課が負担しますので、ご興味があれば茨城県統計課にお問い合わせください。統計情報がテーマであれば、企業等への派遣も相談に応じます。（連絡先：029-301-2637）



(桜川市立雨引小学校 平成28年7月)

～ 統計サポーターを派遣した授業の様子 ～



(左記内容の一部をYouTubeでも閲覧可)



(清真学園中学校 平成28年10月)



(行方市立麻生東小学校 平成29年2月)